中島
艦攻 天山

☆特集☆
速報写真：函館に着陸した MiG-25
海上自衛隊 US-1 救難飛行艇の全貌
装備機でたどるアメリカ第5空軍戦史

'76 NOVEMBER 11

BUNRIN-DO JAPAN

$3.30

ルーク基地のF-104

F-104 of Luke AFB

（グラビア45ページ参照）

編隊離陸するF-104G。胴体中央下に装備しているのは，訓練用爆弾のディスペンサー。
F-104Gs take off in formation. Mounted in the center bottom is a practice bomb dispenser.

(Photo by F.B. Mormillo)

(Photo by F.B. Mormillo)

訓練飛行を終えて着陸したTF-104G。垂直尾翼と翼端増槽のフィンが，アメリカ建国200年記念塗装になっている。右翼下には訓練用爆弾のディスペンサーを装備している。

TF-104G lands after training. The vertical tail and wingtip drop tank vanes are in Bicentennial painting. A practice bomb dispenser is under the right wing.

前ページの機体の尾翼マーキング。
Tail marking

(Photo by F.B. Mormillo)

アメリカ建国200年記念塗装をしたF-104Gの翼端増槽。
Wingtip drop tank in Bicentennial painting

(Photo by F.B. Mormillo)

グラマンF-14トムキャット
Grumman F-14 Tomcat

アメリカ建国200年記念の塗装を施した，第124戦闘飛行隊（VF-124）所属のF-14A。
F-14A of VF-124 with Bicentennial markings.

空母コンステレーションに搭載されている，第211戦闘飛行隊（VF-211）の隊長機。
VF-211 Commander's plane aboard USS Constellation CVA 64

空母コンステレーションに搭載されている，第24戦闘飛行隊（VF-24）の隊長機

VF-24 Commander's plane aboard USS Constellation CVA 64

ロッキードS-3Aバイキング
Lockheed S-3A Viking

第33対潜飛行隊（VS-33）所属のS-3A。
S-3A of VS-33

胴体と尾翼マークにアメリカ建国200年記念の塗装を施した、第29対潜飛行隊（VS-29）所属のS-3A。
S-3A of VS-29 with Bicentennial markings on the fuselage and tail.

機体を建国200年記念塗装にした，第41対潜飛行隊（VS-41）所属のS-3A。
S-3A of VS-41 with Bicentennial markings.

セシルフィールド海軍基地における，第24対潜飛行隊（VS-24）所属のS-3A。
S-3A of VS-24, Cecil Field NAS.

(Photo by R.E. Kling)

アメリカ建国200年記念塗装の マクダネル・ダグラス TF-15イーグル

オハイオ州ライトパターソン空軍基地で撮影したTF-15。
TF-15 Eagle. Photo taken at Wright Patterson AFB, Ohio.

McDonnel Douglas TF-15 Eagle with Bicentennial markings

(Photo by N. Taylor)

(Photo by R.E. Kling)

△▷バージニア州航空隊第192戦術戦闘大隊(192nd TFG)所属のF-105F。
F-105F of 192nd TFG, Va.

▽バックレイにある州航空隊基地(ANGB)における，コロラド州立大学所有のF-101C。
F-101C of Colorado State Univ., Buckley ANGB

(Photo by S.W. Daniels)

エドワーズ空軍基地にある，空軍フライトテストセンターで使用しているNKC-135A。
NKC-135A in use for tests by AF, at Edwards AFB

(Photo by N. Taylor)

(Photo by Peter Grove)

NASA（米航空宇宙局）が民間航空会社から1機だけ借りて，エドワーズ空軍基地でテストに使用している，ボーイング747旅客機。
NASA is now carrying out necessary tests at Edwards AFB with a Boeing 747 which the Administration gets from a civil aviation corporation on lease.

フランス空軍のミラージュ
French AF Mirage

△フランス空軍第1大隊第4飛行隊所属のミラージュIII。
Mirage III of French AF 4/1 Spdn.

▽フランス空軍の第30大隊第3飛行隊所属のミラージュF1-C。
Mirage F1-C of French AF 3/30 Spdn.

AIR TATTOO'76参加のジャガー

(Photo by Inter-Air Press)

△去る7月31日－8月1日まで，グリーンハム・コモン英空軍基地で行なわれたAIR TATTOO'76に参加した，イギリス空軍第226実用訓練飛行隊所属のジャガーGR.1。
△Jaguar GR.1 of RAF 226 OCU.

▽同じくエア・ショーに参加した，イギリス空軍第41スコードロン所属のジャガーGR.1。
▽Jaguar GR.1 of RAF 41st Spdn participating in Intern'l Air Tattoo '76.

(Photo by Inter-Air Press)

ベトナム空軍のMiG-21
Vietnam AF's MiG-21

ベトナム空軍が行なっている，ベトナム全土の定時パトロール飛行に出発前のミグ21MF。写真のように主翼下面にK-13A アトールAAMを２発装備して，パトロール飛行を行なっている。

Vietnam AF's MiG-21MF, armed with Atoll AAM, ready to start for a patrol.

New Soviet V/STOL Fighters Aboard Carrier KIEV

ソ連の新鋭空母キエフ艦上の新型V/STOL機

去る7月19日，地中海に現れたソ連空母キエフ艦上の新型V/STOL戦闘機。同機が'Yak-36で，かつて1967年にドモデドボで飛行した，フリーハンドVTOL試作機につけられた呼称は間違いという説と，Yak-36ではない新型戦闘機という説があるが，現在のところはっきりしたことはわからない。このページ上と右ページは，北大西洋で訓練中の新型機。同機は，全長約55フィートで，ホーカーシドレー・ハリアーよりも10フィート長く，対潜作戦，攻撃／偵察用に使用されるものと思われる。

New Soviet V/STOL fighter aboard the KIEV, USSR Mediterranean fleet July 19. Some say it is the Yak-36. Some insists that it is not Yak-36. It is anyway about 55ft long, 10ft longer than the Hawker Siddeley Harrier land-based VTOL fighter.

↑(UPI・サン)

今日のアエロフロート

AEROFLOT, Today

アエロフロート（ソ連国営航空）は世界最大の航空会社だ。スピード，乗り心地のよいこと，乗客数や貨物輸送量の膨大さなどがその特徴である——といわれているだけに，去年１年間の乗客数は9,800万人以上，貨物量は，250万tにもおよび，航空路の総延長は80万km以上にのびて，3,500以上の都市を結んでいる。また1976～1980年の第10次５ヵ年計画は，同社にとってさらに一歩前進になるといわれている。左ページ上は超音速旅客機Tu144。このページ上は農業用のターボジェット複葉機M-15。下はシベリアの空の交差点トルマチェボ空港。

(Photos by Novsti Press)

AEROFLOT is proud of its huge extension in the passenger and cargo transport. Last year, the number of passengers carried reached 98 million, and the cargo 2.5 million tons. (Left page) Tu-144, (This page) M-15, (Bottom) An airport in Siberia; known as an air crossroad.

(Photos by Novsti Press)

函館に着陸した　ミグ25

（中西氏撮影）

Soviet Pilot Lands Secret MiG-25 On Hakodate

（中西氏撮影）

去る9月6日午後1時50分ごろ，航空自衛隊の迎撃のアミの目をくぐって，ソ連の最新鋭ジェット戦闘機MiG-25（フォックスバット）が，函館空港に強行着陸した。パイロットの証言から亡命とわかったが，同機が深いベールにつつまれていた機体だけに，今後のなりゆきでは両陣営の航空戦略体制に大きな影響を与えかねない事件であった。なお，この機体は，機首に大型レーダーを積み，主翼下に4ヵ所のミサイルランチャーのあるA型である。写真はいずれも着陸当日函館空港で撮影したもの

A Soviet MiG-25 jet fighter, one of the most advanced weapons in in the Soviet arsenal, made a forced landing at the civilian Hakodate Airport early Monday afternoon, Sept. 6. Lt. Victor Ivanovich Belenko, pilot, wants asylum in the U.S. As of the morning of the 9th, the Koku Fan manuscript closing hours, his desire of asylum is expected to be granted. Handling of the MiG-25 has yet been undecided.

（中西氏撮影）

このページは
北海道新聞社提供

A-4M ASSIGNED TO IWAKUNI MCAS

新鋭A-4Mが配属された岩国米海兵隊基地

去る8月1日，岩国米海兵隊基地に，新鋭A-4Mスカイホークを装備した第223海兵攻撃飛行隊（VMA-223）が配属になった。これはそれまで岩国に駐留していた，A-4E装備の第211海兵攻撃飛行隊（VMA-211）と変るために，アリゾナ州のユマ基地から飛来したもので，VMA-211はカリフォルニア州のエルトロ基地に移動した。左ページとこのページは，岩国基地におけるVMA-223のA-4 M。

Marine Attack Squadron 223 arrived at Iwakuni NAS, August 1, from MCAS, Yuma, Ariz., flying A-4M Skyhawk jets, the newest attack jet in the Marine Corps' inventry. VMA-223 is exchanging positions with Iwakuni-based VMA-211, who are flying their A-4E Skyhawks to MCAS, El Toro, Calif.

このページは，第513海兵攻撃飛行隊(VMA-513)所属のAV-8Aハリアー。上は編隊離陸するAV-8A。下は訓練のため愛機に乗りこむパイロット。いずれも空中給油受油装置を取り付けている。

V-8A Harrier belonging to VMA-513. (Below) A pilot is getting astride his plane. Both planes have the on-the-air refueling system.

離陸する第12司令部整備飛行隊(H&MS-12)所属のTA-4F。TA-4F of H&MS-12

第3戦術偵察飛行隊(VMFP-3)所属のRF-4B。RF-4B of VMFP-3

7月初めに第224全天候攻撃飛行隊(VMA(AW)-224)に変って駐留しているVMA(AW)-332所属のA-6E。

A-6E of VMA(AW)-332, Iwakuni NAS. This unit, successor of VMA(AW)-224, has been stationed at Iwakuni NAS since July.

このページは第232海兵戦闘攻撃飛行隊（VMFA-232）所属のF-4Jで，上と中はアメリカ建国200年記念の塗装をしている。

F-4J of VMFA-232.

ルーク基地のF-104

F-104, LUKE AFB

Photos by F.B.Mormillo

ルーク基地にある第69,418戦術戦闘訓練飛行隊(TFTS)は，F-104Gによるドイツ空・海軍パイロットの訓練をしている。ここにはドイツ政府に所属するF-104Gが約80機あり，同政府は，ここで訓練を受けるパイロットに対して，1人310,000ドルを支払っている。また，418TFTSは，通常訓練に加えて，最新の戦闘機訓練も行なっている。それは，戦闘機兵器係のインストラクターの教育と，爆撃についての訓練である。

F-104Gs at Luke AFB are operated by the 69th and the 418th TFTS squadrons which conducted aircrew training for German AF and Navy pilots. There are about 80 F-104Gs at Luke AFB which belong to the German government.

このページと右ページはルーク基地のF-104のスナップ。このページ上は建国200年記念塗装をしたTF-104G。ドイツ所有の機体にアメリカ人のデザインによる塗装をして，ドイツ人パイロットが訓練を受けているというのは，ユニークなことである。

F-104 at Luke AFB. It is rather unique to see an aircraft that was designed by the Americans, owned by the Germans and operated by the USF to train Luftwaffe pilots carrying markings celebrating the U. S. Bicentennial.

U.S. AIR FORCE
U.S. AIR FORCE
U.S. AIR FORCE
U.S. AIR FORCE

グアム島のオライオン

ORION's At Guam

グアム島の空の表玄関であるグアム国際空港は，アガナ海軍航空基地（NAS AGANA）の一部にあり，平行した２本の滑走路を中央に東側が民間空港，西側がアガナ海軍航空基地となっている。このアガナ基地には，VQ-1，VQ-3の両艦隊偵察隊があり，P-3を装備した哨戒飛行隊の分遣隊が駐留しており，広いフライトラインには，EP-3E，EA/TA-3B，EC-130QにP-3Bなどの姿を見ることができる。左ページとこのページは，VP-17（第17哨戒飛行隊）のP-3B。

VQ-1 and VQ-3 fleet reconnaissance units are stationed at the east side of the international airport of Guam, or NAS Agana, where EP-3E, EA/TA-3B, EC-130Q and P-3B aircraft are nested. The P-3B of VP-17 is one of them.

〔上〕イギリスで最も新しく、世界でははじめての、ワイドボディーのいわゆるコミュータ機（近距離の通勤用に用いられる小型輸送機）ＳＤ3-30が、このほどノーザン・アイランドのベルファーストでアメリカのユーザーに引渡された　（中左）売込み飛行が開始された、デ・ハビランド・カナダ社の新鋭機ＤＨＣ５Ｄ〝スーパーバッファロー〟。

〔中右〕イギリスのフィルトンにある、ＢＡＣ工場における、コンコルドの生産ライン。左から12、14、10号機。〔下〕ロンドンのヒースロー空港に翼を休める、英国航空のコンコルド量産４号機（手前）と、６号機。

〔左上〕このほど、ウクライナのチェルノフトスイにある、大学の工学部の学生が中心となって、デルタ・グライダー・スポーツ・クラブが誕生した。〔右下〕ソ連のオビ川の岸にある、バルナウルの高等軍事飛行学校では、パイロットの卵たちが、日夜はげしい訓練を受けている。写真の機体はYak-28。
（TASS）

（TASS）

（TASS）

（TASS）

〔上〕アエロフロートで使用している、超音速旅客機Ｔｕ-144。〔中左〕同じくアエロフロートのＩℓ-76大型輸送機。

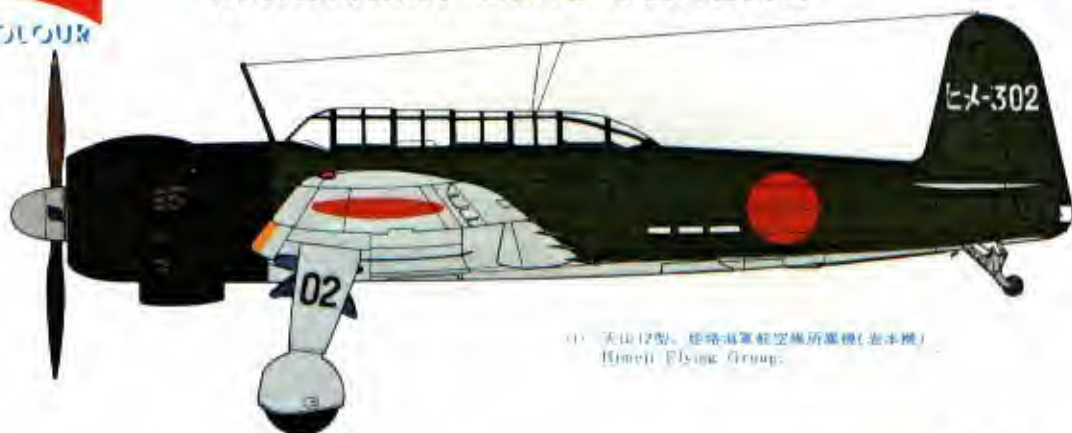
〔中右〕西部シベリア、オビ川の中部流域のサモトラ油田地帯へ送電するための、送電線用鉄塔の建設に活躍するＭｉ-8ヘリコプター。
〔下〕ドモデドボ空港におけるYak-42中距離ローカル用旅客機。

スナップだより

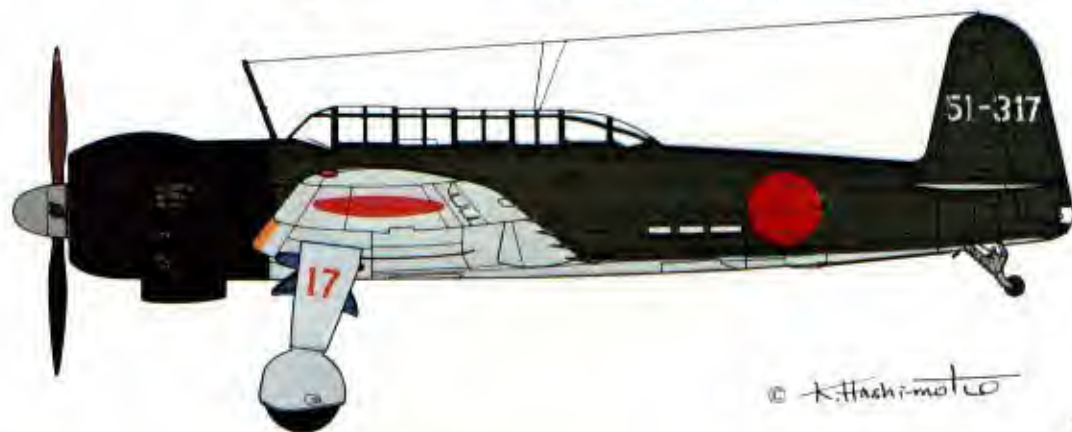
岩国基地に着陸するＶＭＡＱ-2所属のＥＡ-6Ａ．機種に建国200 年記念のアメリカ国旗が描かれている。
（岩国市　村重寛一）

翼端と翼下にサイドワインダーＡＡＭを装備して飛行するＴ-2特別仕様機。
（一宮市　穂科岳昭）

嘉手納基地に着陸する米海軍のＣ-9Ｂ輸送機。
（東村山市　須藤正夫）

NAKAJIMA B6N2 TENZAN

① 天山12型、姫路海軍航空隊所属機（岩本機）
Himeji Flying Group.

② 天山12型、第903航空隊所属機
903rd Flying Group.

③ 天山12型、第752航空隊所属機
752nd Flying Group.

④ 天山12型、第551航空隊（のちに第331攻撃飛行隊と改称）所属機
551st Flying Group (later 331st F.G. Attack Sqdn.)

デハビランド・モスキート　スナップ集

de Havilland Mosquito

⬇ Fighter version prototype Mosquito W4052

イギリスが二次大戦中に生んだ木製の高性能双発機モスキート。偵察，爆撃，戦闘爆撃，夜間戦闘と各種の任務に使われ，スピットファイアー，ランカスターとともにイギリス空軍大戦機のなかの三大傑作機のひとつ。戦後も生産はつづけられ，各型を含めて総生産機数は7,785機。1951年にキャンベラが就役するまで制式機であった。

↑ P.R. version prototype Mosquito W4051

もともとモスキートは，木製機の製作で実績のあるデハビランドが，防御火器なしでも戦闘機をかわせる高速の爆撃機として計画された飛行機。空軍当局は乗り気でなかったが，デハビランドの熱意が勝って，D.H.98モスキートとして正式に開発がスタートしたのは1940年3月1日。デハビランドは空軍と原型機を含めて50機の生産契約を結んだ。原型機は3機造られ，その1号機である爆撃型の原型W4050は40年11月25日に初飛行，飛行テストの結果，戦闘機にも劣らないすばらしい運動性を実証した。写真〔左上・上〕1941年6月10日に初飛行した写真偵察型の原型W4051。写真偵察型はP.R.MK.Iとしてひきつづいて10機が造られ，同年9月20日，実戦投入されたモスキートの第1号として偵察任務に飛んでいる。

〔左下・下〕1941年5月15日に初飛行した戦闘機型の原型であるW4052。戦闘機型は機首先端に7.7mm機関砲4挺，機首下面に20mm機関砲4門を装備していた。

↓ Installation of 20mm Hispano Cannon and 0.303 in Browning Machineguns in N.F. Mosquito.

DUXFORD VINTAGE DAY

英国ダックスフォード“古典機”飛行ショー

英国ケンブリッジシャー州にある第一次大戦以来の英空軍航空基地ダックスフォードを本拠とするダックスフォード・エビエーション・ソサイテイが、“ダックスフォード・ビンティジ・デイ”と銘うって、去る6月26日に開催した古典・大戦機航空ショーの参加機。〔上〕おなじみの英空軍の曲技飛行チーム“レッド・アローズ”の演技。使用機はセントラル・フライング・スクールのナットT.Mk1。〔下〕ヨービルトンの海軍航空飛行博物館から参加したフェアリー・ソードフィッシュII(LS326)。ヨービルトンからはファイアフライも参加した。

(Photo by Mr. Jeff Pavey)

Swordfish LS326 from Fleet Air Arm Historic Aircraft Flight.

Messerschmitt Bf108 Taifun.

〔上〕二次大戦中のリヒトホーフェン部隊機の塗装にしたBf108タイフーン。離陸発進に向うところ。〔下〕同じく滑走路へタキシングするマイルスM.38メッセンジャー。

ダックスフォード基地の航空ショーは，1934年の第1回ショー以来今回は12回目。帝国戦争博物館その他の後援を得て開催している。

Miles M.38 Messenger.

↑ P.R. Mosquito W4051 in flight test

〔上〕写真偵察型の原型W4051。写真偵察型は原型につづいてW4053からW4062まで10機が造られ，前述の41年9月20日に初出撃したのはW4055(LY-T)機。ブレストとボルドー港の昼間高々度偵察で，Bf109戦闘機3機の追撃を受けたが，同機は高度7,000mを飛んで，Bf109をかるくかわして帰投した。写真偵察型のP.R.Mk.Iは，翌42年5月には，第1写真偵察部隊(No.1PRU)に装備されて，ベンソンやリューチャース基地やジブラルタル方面に派遣され，爆撃機の目標偵察，戦果確認，ドイツ軍のポケット戦艦の哨戒，レーダー基地の偵察などに飛んでいる。〔下〕夜間戦闘機型のモスキートN.F.Mk.II。モスキートの戦闘機型は，Mk.IIと命名されたが，昼間戦闘機型のF.Mk.IIは1機が造られたのみで，実戦に出たのは夜間戦闘機型と戦闘爆撃機型であった。夜間戦闘機型N.F.Mk.IIの1号機は1942年5月，本土防空の第23スコードロンに装備されて初出撃した。

↓ Mosquito N.F.Mk.II

⬆ Mosquito B.Mk.Ⅳ of No.105 Sqdn

〔上〕モスキートB.Mk.Ⅳ(4)。モスキートの爆撃機型は原型のW4050につづいて，1941年9月には，500-lb爆弾が4発積めるように改造したB.Mk.Ⅳの原型W4072が初飛行した。B.Mk.Ⅳを最初に装備したのはノーフォーク州スワントン・モーレイ基地の第105スコードロンで，1941年11月，ブレニムに代えて受領。翌42年5月31日に初出撃した。写真上は同スコードロン所属のB.Mk.Ⅳで，1942年末の撮影である。同スコードロンを含む第2爆撃大隊の三つの爆弾スコードロンは，42年5月から翌43年5月にかけて，本機でヨーロッパ全域のドイツ軍拠点に効果的な昼間爆撃を行なっている。〔下〕コースタル・コマンドに装備されたF.B.Mk.Ⅵ(6)。Mk.ⅥはMk.Ⅱの爆弾搭載量をふやしたもので，シリーズ1とシリーズ2があり，シリーズ1は250-lb爆弾4発，シリーズ2は500-lb爆弾4発を積んだ。コースタル・コマンドの装備機は艦船攻撃用にロケット弾も使っている。

⬇ Coastal Command Mosquito F.B. Mk.Ⅵ fighter/bombers land at their Scottish base.

Hurricane Mk. II LF363 from Battle of Britain Memorial Flight.

〔上〕リンカンシャー州のカニングスビイ空軍基地を本拠とする大戦機同好グループ“バトル・オブ・ブリテン・メモリアル・フライト”から参加したハリケーンMk. 2（LF363）。同グループは英空軍史上の最も輝やかしい時期であるバトル・オブ・ブリテンの生きた歴史を保存しようという有志の集い。写真上のハリケーンと右上のスピットのほかに，ランカスターMk. 1（PA474），ハリケーンMk. 2（PZ865），スピットファイアMk. 5（AB910），同Mk. 19を２機（PM631とPS853）など，現在のところ飛行可能な二次大戦機を計７機保有している。〔下〕ボーイングB-17G。同機のシリアルは44-85784で，かつて米陸軍空軍の装備機であったもの。現在ヨーロワールド会社（Euroworld Ltd.）が保有しており，アメリカ民間機の登録記号N17TEを付けている。

Boeing B-17G N17TE.

Spitfire Mk. II P7350 from B. O. B. M. F.

〔上〕左上と同じく“バトル・オブ・ブリテン・メモリアル・フライト”所属のスピットファイアMk. 2（PZ7350）。機体塗装は1940—41年頃の第266スコードロンのもの。
〔下〕英帝国戦争博物館が保有しているP-51Dムスタング。同機はかつて米第8空軍第78戦闘大隊（78th FG）の所属機で，シリアルは44-7258。

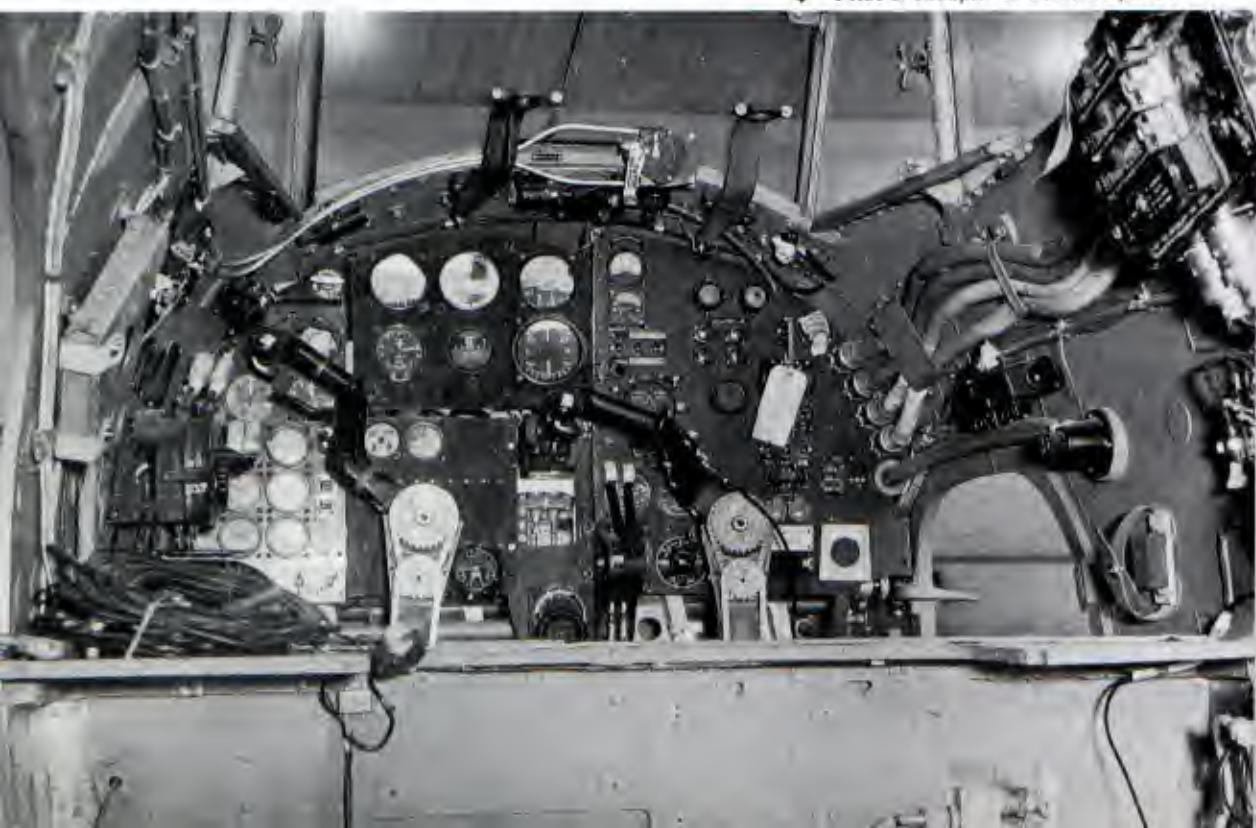
今回のショーには，以上のほかにシャトルワース・コレクションからスピットファイアが2機，アブロ・アンソンC 19が1機，ミリタリ・エアクラフト・オナーズ・アソシェションからもヤコブレフC 11，フィゼラー・シュトルヒ，フィアトG 46などが参加して飛行展示を行なった。さらに複葉のピッツ・スペシャルが曲技飛行で華をそえ，ケンブリッジ大学のグライダー・クラブが特別参加，1930年代のクラシック・カーの展示もあった。

P-51D Mustang 44-72258 from I. W. M.

↑ A view of the cockpit of N.F. Mosquito.

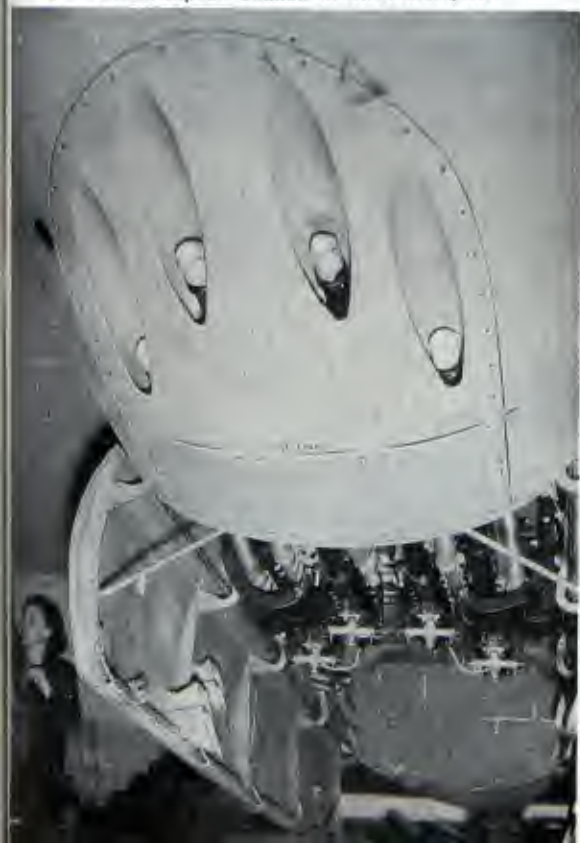
〔上〕モスキート夜間戦闘機型のコクピット。並列複座で，進行方向左側がパイロット。コクピットは同じように平面の防弾ガラスでおおわれていたが，夜間戦闘機型および戦闘爆撃機型は，爆撃機型と偵察機型にくらべるとスペースの余裕があり，居住性も良かったという。高々度を飛ぶ偵察機型は与圧式となっていたが，パイロットに“ボイラー”と呼ばれる暑苦しさであった。

〔下〕モスキートの操縦席正面。夜間戦闘機型のもので，正面左側上部に飛行用計器板，カバーをはずしてギアがむき出しになった操縦ステッキ2本もうつっている。

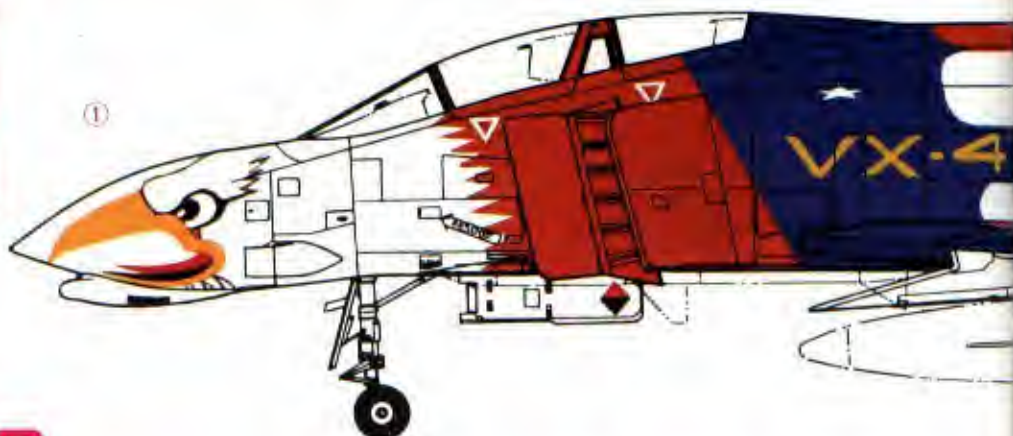
↓ Pilot's cockpit of N.F.Mosquito.

↑→ Crew getting into the cockpit.

〔上・右〕モスキートに乗り込む乗員。同機の昇降は，原型ではコクピットの左側のドアを開閉して行なったが，生産型では写真のように床のトラップ・ドアから乗り降りするように改められた。

〔下〕夜間戦闘機型の機首下面に装備された４門の20mmイスパノ機関銃。

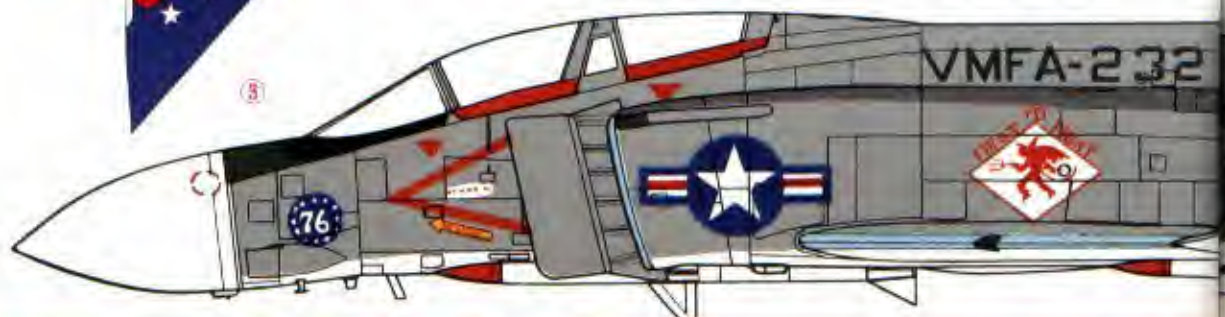
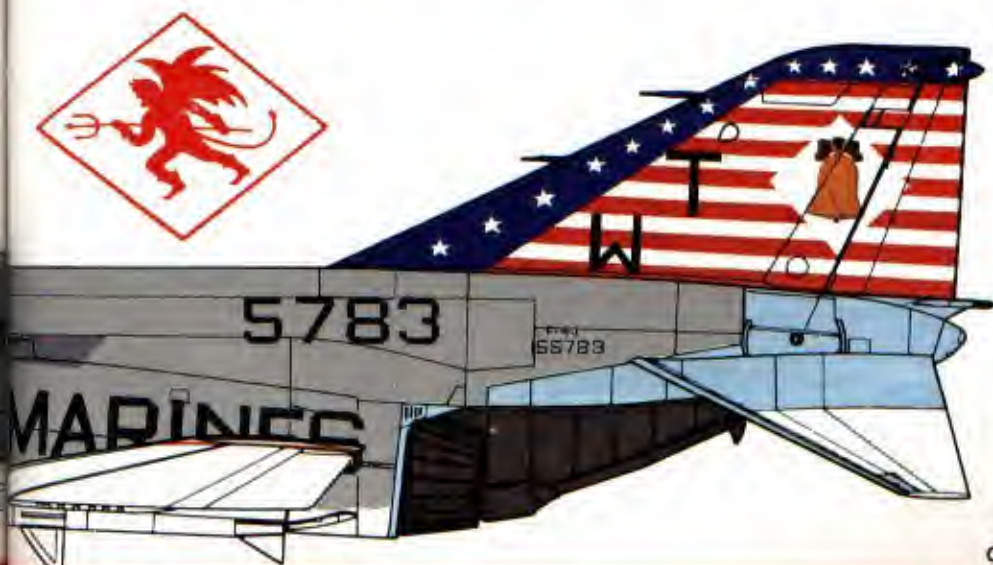
↓ 20mm Hispano cannon of N.F. Mosquito.

Revell ハイモデリングのための

レベル資料集

F-4ファントムIIのアメリカ建国200年

F-4J/B PHANTOM II BICENTENNIAL

1/32～1/72 SCALE KIT

① F-4B。ポイントマグー基地の海軍第4実験開発飛行隊(VX-4)の所属機
② F-4J。第115海兵戦闘飛行隊(VMFA-115)所属機
③ F-4J。第232海兵戦闘飛行隊(VMFA-232)の所属機

← ①のF-4B機の機体上面

記念マーキング集
SPECIAL COLORS
Bicentennial
USNAVY
76
VE
VMFA-115
3828
53828
MARINES
5783
55783
TW
DRAWING BY
K.Hashimoto
COPYRIGHT DRAWING

F-4 PHANTOM II BICENTENNIAL

ハイモデリングのための
レベル資料集

F-4ファントムIIのアメリカ建国200年記念マーキング集

派手なマーキングの建国200年記念マーク付きの米軍機が続々と出現して，われわれマニアの目を楽しませてくれているが，今月はF-4ファントムIIの記念マーク塗装機をピックアップしてみた。

図① 記念マーク付き機のベスト・ワンとも思える「鷲」をデザインしたF-4Bで，VX-4所属機。本誌'76年6月号の表紙で紹介されているが，この表紙の塗装は，塗装途中のもので，仕上りはこのカラー図のように派手なものとなった。カラーはアメリカ国旗と同じ紺と赤と白，文字はゴールド。主翼はA図のように紺・白・赤で，エアインテークの上と翼前縁に片側5個の白い星があり，下面もほぼ同じ塗装と推定される。

レベルから発売中の1/32スケール・キットはJ型なので，機首や垂直尾翼，ジェット・ノズルなどを改造する必要があるが，それほど困難な改造ではないから，ぜひ実現させてみたいマーキングの機体である。

図② アメリカ海兵隊第115戦闘飛行隊（VMFA-115）所属の記念塗装機。記念カラーの紺と白，赤の帯が基本で，主翼と水平尾翼の上下面にも記念カラーの塗り分けがある。白い星は同一部分では同じ大きさのものが記入されており，VEの文字は黒。

図③ アメリカ海兵隊第232戦闘飛行隊（VMFA-232）所属のF-4Jで，垂直尾翼は星条旗をもとにレイアウトされており，中央部に「自由の鐘」（ひび割れのついたもの）のマークがある。機首の76記念マークは左右にあり，主翼翼端は紺・白・赤の細い帯が入っている。

☆　☆　☆

現在発売中のF-4ファントムIIのレベル・キットは，1/32スケールで，F-4J，F-4EJ，F-4E，F-4Fの4種デラックス・キットがあり，また1/72スケールの航空自衛隊第302飛行隊マーク付きF-4EJのキットも好評発売中である。

1/32スケール・ファントムIIキットは，武装アクセサリーや増槽が完備している豪華版で，しかもデカールがこれまた超ビッグサイズの詳細をきわめたものであるのも非常に注目される。機体の全面にある極小の注意書き文字にいたるまで完備しており，デカールを貼るだけでも充分以上に楽しめるという，実に素晴しいキットである。

〈イラストと解説：橋本喜久男〉

〔写真上〕第161戦闘飛行隊（VF-161）のF-4N。〈Photo：S.Ohtaki〉

〔写真右上〕第115海兵戦闘攻撃飛行隊（VMFA-115）のF-4J。〔Photo：K.Murashige〉

〔写真右下〕第232海兵戦闘攻撃飛行隊（VMFA-232）のF-4J。〈Photo：K.Murashige〉

SPECIAL COLORS

F-4J Phantom II of VF-151, NAF Atsugi

建国200年記念塗装のF-4J。第151戦闘飛行隊の所属機。厚木基地にて。

日本海軍最後の艦攻“天山”

NAVY CARRIER ATTACK BOMBER
NAKAJIMA B6N1～2 TENZAN

Nakajima B6N2 TENZAN (Jill). Hyakurihara. April－May 1944.

（写真、永田[illegible]郎氏提供）

TENZAN Model 12. Photo taken just before the Mariana sea battle, June 1941. The tail letter, "12" shows that it belongs to the second carrier of the 1st Kosen (Air Flotilla).

〔前ページ〕"護"(まもり)エンジンを装備した天山11型。中島製の"護"エンジンは高出力であったが、油温過昇やピストンの焼き付きなどトラブルが多く、途中で"栄"や"誉"の量産を重点的に行なうために生産を中止したこともあって、のちにより実用的な三菱の"火星"25型に換装、天山12型となった。写真の機体は昭和19年4～5月ごろ、訓練のために横空から百里原基地の練習航空隊に1機だけ運ばれたもの。後方は97艦攻。

Four Model 12 TENZAN, with 800kg torpedoes, in a formation flight.

〔上〕"火星"エンジンに換装した天山12型。写真は昭和19年6月のマリアナ沖海戦の直前に撮影した空母"瑞鶴"の搭載機。尾翼の12は1航戦2番艦を示す。本機は昭和18年11月のブーゲンビル島沖海戦でデビューしたが、本格的に使われたのは、このマリアナ海戦以後であった。〔左下〕胴体下に800 kgの魚雷をつるして編隊飛行中の天山12型。〔下〕"護"11型エンジンを付けた天山11型の増加試作型。魚雷は機軸から右に寄せて装備。

TENZAN Model 11, B6N1, powered by Nakajima Mamoru Model 11 engine. Note the torpedo equipped rightward.

TENZAN Model 12 of Kagoshima Detached Force of Genzan Naval Air Corps. Seen behind is Mt. Sakurajima.

〔上〕元山航空隊鹿児島分遣隊所属の天山12型。後方にかすんでいるのは桜島。前ページ写真でごらんのように、天山11型は機首両側下方に推力集合式排気管が延びているが、"火星"装備の12型では単排気管となって、機首の形状も変っている。尾輪は11型では引込み式であったが、12型では固定式に改められた。

TENZAN Model 12 aboard the mother carrier. Reproduced from a news film produced at that time.

〔左下〕母艦上の天山12型。当時のニュース映画のひとこまである。天山はのちに3機に1機の割合いで電探を装備。電探装備機は胴体側面にアンテナを突き出していた。写真の機体も電探装備の1機である。コクピットは前から操縦士、偵察兼爆撃手、射手兼通信手席の順。

〔下〕第601航空隊の天山12型。同航空隊は昭和20年2月11日付けで第3航空艦隊に所属し、基地航空隊となって木更津方面に配備されたが、写真は2月21日に香取基地で撮影したもの。手前の機体は電探装備機である。後方に硫黄島をめざして発進準備中の零戦や彗星がうつっている。

97艦攻の後継機として、昭和14年に開発を開始した14試艦攻天山。当時の一流艦攻にくらいする性能であったが、本格的に使われ出したころにはすでに母艦がなく、台湾沖航空戦、比島沖海戦、沖縄決戦と陸上からの作戦が多かった。総生産機数は1,266機。

TENZAN Model 12 of No.601 Naval Air Corps, Katori Naval base. 21 Feb. 1945. One located this side is armed with radar. Zero fighters and SUISEI attack bombers are in preparation for Iwojima sorties.

TENZAN Model 12 captured by the USF after the war. Highly efficient performance was proved in tests by the USF in America.

TENZAN Model 12 captured by the USF after the war. Highly efficient performance was proved in tests by the USF in America.

終戦時に米軍にろ獲された天山12型。天山12型は戦後アメリカに運ばれてテストされ、艦攻としての高速と運動性の良さには注目されている。現在アメリカのウイローグローブ海軍基地に1機が保存されている。上の写真では2式複戦屠龍も一緒にうつっている。

Type 96 Attack Bomber (G3M1, Nell) Model 22 of No. 1 Naval Air Corps stationed at Rabaul, 1942, early stage of Pacific War.

ラバウルに派遣された第1航空隊の96式陸攻22型。勝ちいくさのころ、列線にならんだ威容と発進するシーン。96式、1式と海軍陸攻の基地ブナカナウ飛行場（西飛行場）である。 (Photo by T. Hino)

ここの2枚も114−115ページと同じくラバウルのブナカナウ飛行場に派遣された第1航空隊の96式陸攻22型。昭和16年4月に台湾の新竹基地で編成された第1航空隊は、17年4月に第24航空戦隊に編入されて内南洋方面に配備され、一部はここラバウルに派遣された。同航空隊は17年11月1日付けで第752海軍航空隊と改称され、同年12月に木更津に転進するまで、優勢な頑戦を南方で戦った。

写真上はブナカナウ飛行場上空を飛行中。日華事変で活躍した11型の"金星"エンジンを馬力アップしたものに換装、背部の円筒形の引込み式銃座を流線形のブリュスター型に改め、20mm機関砲1門を追加装備するなどの改造をしたのが22型。上の写真でその銃座がよくわかる。下の写真の機首クローズアップでは、エンジンや主脚まわりの細部やコクピット内の乗員配置までよくわかって面白い。

(Photo by T. Hino)

Type 96 Attack Bomber, Model 22 of No.1 NAC. Organized in April 1941 at Shinchuku, Taiwan, the 1st NAC was assigned to the 24th Sentai (Carrier Division) in April 1942. The corps' theatre was the southern Pacific including Rabaul until November 1942 when the corps was renamed No. 752 Naval Air Corps and returned to Kisarazu, Chiba Pref.

未発表陸軍機写真集

(Photo by Y.Igarashi)

快速の"戦略偵察機"の元祖100式司令部偵察機の未発表写真。写真上と右上は調布飛行場を基地に東京防空に活躍した独立飛行第17中隊の所属機。同中隊は武装した100式司偵も装備、哨戒任務のほか迎撃戦の一翼もになった。胴体の日の丸は防空任務を示す白帯付き。右と左ではスピナの塗装が違っているのに注意。

⬇ Ki. 46 Commandant Reconnaissance Airplane, Model 2, in Manchurian front. Two planes on the right are the Mitsubishi Ki. 15 Reconnaissance Airplane.

⬅ ⬇ Mitsubishi Ki.46 Commandant Reconnaissance Airplane (Dinah), Model 2, of Dokuritsu Hiko 17th Comany, Army, based at Chofu airfield for the defense of Tokyo area.

(Photo by K.Mitsuhashi)

写真下は陸軍偵察部隊として最古の歴史をもつ名門部隊，飛行第2戦隊の所属機，右側の2機は97式司偵2型。同戦隊は内地と主に満洲方面で作戦。写真はチチハル飛行場で撮影されたもの。尾翼のマークは、第2戦隊の"二"とつばめを図案化したもので，快速の100式司偵にふさわしいマーキングである。

(Photo by S. Akasaka)

装備機でたどる 米第5空軍戦史

第475戦闘大隊のP-38ライトニング

（77ページ本文記事参照）

P-38 flown by Col. Charles H. MacDonald, 475FG, Ace No. 3 of the 5AF. Autumn 1944 at Lyte.

（Photo;Amos Warner）

大戦中の1942年9月に南西太平洋で編成され、マッカーサーとともに濠州からニューギニア、比島と日本本土をめざして進攻した米陸軍第5空軍。戦後は日本に駐留して、おなじみの空軍でもある。今月号から連載で、同空軍各部隊の装備機を紹介することにしよう。部隊の一員であった方たちのアルバムから借用した珍らしいものばかりである。今回は第475戦闘大隊(475th FG) 各中隊のP-38ライトニング。

〔上〕475大隊の隊長であるチャールズH.マクドナルド大佐の乗機であるP-38J-10。同大佐は撃墜機数27機で、第5空軍第3のエースである。写真は1944年秋、レイテ島で撮影。〔下〕第475戦闘大隊第431戦闘中隊の初代中隊長フランク・ニコルス少佐とその乗機。1943年中期の撮影。

Maj. Frank Nichols, 431FS Commander, and his plane, P-38.

（Photo:C.R.Anderson）

WINGS OF 5TH AIR FORCE

（右）第５空軍ナンバー２のエースであるトーマスＢマクガイア少佐のＰ-38。同少佐は第431戦闘中隊所属で、写真はレイテ島タクロバン基地で1945年１月に撮影。胴体には同少佐の総撃墜機数である38個の撃墜マークが記入されている。少佐はこの写真の数日後にネグロス島上空で戦死した。

（下）第432戦闘中隊のＰ-38Ｊ-５の１機。

（最下段）同じく第432戦闘中隊所属のＰ-38Ｈ。

(Photo;C.R.Anderson)

P-38 flown by Maj. Thomas B. McGuire, Ace No. 2 of the 5AF with 38 victories.

P-38J-5 of 432FS

(Photo;James Fazzi)

P-38H of 432FS

(Photo;C.R.Anderson)

P-38J flown by Lt. C.R. Anderson, 433FS Commander.

(Photo;C.R.Anndrson)

（上）第433戦闘中隊のC.R.アンダーソン中尉の乗機であるP-38J-10 "バージニア・マリー"号。1944年、ビアク島で撮影。

［下］これも第433戦闘中隊所属のP-38Hの1機。

第475戦闘大隊は、第5空軍の4番目の戦闘大隊として、1943年8月から実戦配備となった。傘下は第431、第432、第433の3個戦闘中隊で、最初の装備機はP-38のFとH型であったが、1944年6月にP-38J-10に機種改変している。1943年8月以来、終戦の1945年8月までの2年間に同大隊が挙げた撃墜機総数は545機で、このうち225機は第341戦闘中隊による戦果である。

P-38H of 433FS

Douglas DC-2. Douglas's first 14-seat twin, 1935.

エアラインの翼

Pan Am's Planes

パン・アメリカン航空 ⑥

南米路線の主役はS-40、S-41、S-42などの飛行艇であったが、1930年なかばの国際路線の拡張期を迎えて、ブラジルのパンエア・ド・ブラジルやメキシコのフォード・オブ・CMA、アエロビアス・セントラルスなど、国内線運航用の子会社が創設され、新型の陸上機がつぎつぎに導入された。

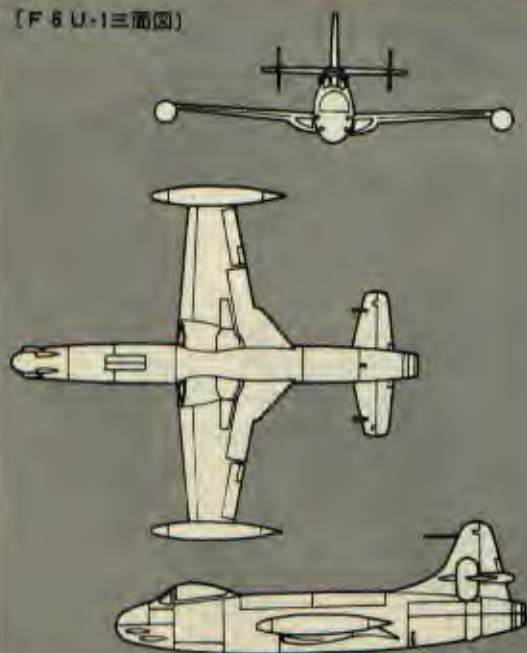
〔上〕1934年に導入された最初の近代的な低翼単葉双発の陸上輸送機ダグラスDC-2。DC-2の生産型の1号機が初飛行したのは1934年の5月11日。1週間後の5月18日には、TWA（トランスコンチネンタル・ウエスターン・エア）のコロンバス－ピッツバーグ－ニューヨーク路線に就航、8月1日からは米大陸横断路線に就航している。パンナムはTWAにつづいて、同機を装備した2番目の航空会社であった。同機は乗客14人乗りで、巡航速度は160mph(257km/h）と飛行艇にくらべるとだんちがいの"高速"であった。同機につづいて、ロッキードL10エレクトラ、ダグラスDC-3が導入され、南米の空をネットすることになる。装備機数は16機。

〔下〕 DC-2と同じく1934年にメキシコのアエロビアス・セントラルス社に装備されたロッキード・オライオン。同社ではノースロップ・デルタにつづいて、3機を購入している。

〔DC-2データ〕エンジン・ライトR-1820-F3（離昇出力875hp）×2、全長18.89m、全幅25.90m、全備重量8,618kg、乗客14人、巡航速度257km/h、巡航高度2,438m、航続距離482km。

〔ロッキード・オライオン・データ〕エンジン・ライト・サイクロン(525hp）×1、全長8.53m、全幅13.10m、全備重量2,449kg、乗客6人、巡航速度321km/h、巡航高度1,828km、航続距離1,205km。

Lockheed Orion. Used by Aerovias Centrales in 1934.

(F6U-1三面図)

先月号につづいて、チャンス・ボートが終戦直後に初めて造った艦上ジェット戦闘機F6Uパイレーツ。今回は生産型のF6U-1である。F6U-1は原型のXF6U-1 3機につづいて30機が発注され、1号機は1949年7月に初飛行、翌月の8月に海軍に引渡され、50年2月までに全機が納入された。30機（シリアル122478～122507）につづいて、さらに35機が追加発注されたが、生産に入る前にキャンセルされている。

生産型のF6U-1は、ウェスチングハウスJ34-WE-30Aエンジン（推力アフタバーナ使用4,225-ℓb・1,916kg）×1で、先月号で紹介した原型機とくらべると、機体各部が改造されている。まずアフターバーナを付けて胴体尾部を延長、主翼後縁の約⅓にわたる大きなフイレットを付けて、原型3号機で試みられた背ビレ付き大面積の垂直尾翼となり、水平尾翼両端には小さな補助フィンが付けられた。写真上と右は、部隊に引渡されたF6U-1であるが、右の写真の機体は、水平尾翼の補助フィンが付けられていない。

ジェット
戦闘機の
先輩たち
CHANCE VOUGHT
F6U PIRATE
チャンスボート
パイレーツ
アメリカ海軍 ⑪

海軍でテスト中のＦ６Ｕ-１。上の写真では主翼のフィレット、垂直尾翼先端の補助フィンがよくわかる。機首に20mm機関砲４門を装備、両翼端の落下増槽で、航続距離は約1,000マイル（1,609km）延びた。

Ｆ６Ｕ-1の１機（シリアル122483）は、カメラを積んで写真偵察型のＦ６Ｕ-1Ｐに改造されている。写真上はＦ７Ｕ-1カットラスとの編隊飛行。

〔Ｆ６Ｕ-1データ〕全幅10.00m、全長11.46m、全高3.94m、全備重量5,701kg、最大速度907km/h（高度6,098m）、航続距離1,207km（機内燃料のみ）。